

ユダヤ・イスラエルに思う⑤ 食物規定と安息日

長谷川 修

世界のほとんどの宗教に、程度の差はあれ忌避事項（タブー）があるが、中でも厳格なユダヤ教の食物規定と安息日についてみてみよう。

食物規定は、食べて良い物（コシエル）と忌避すべき物が、聖書（レビ記）に明示されている。食べて良いのは、肉類ではひづめが割れて反芻する動物に限られ、牛、羊はOKだが、豚はNG。魚介類ではヒレとウロコがある魚のみで、イカ、エビ、貝類、鰻はNG。更に、動物の血は避けねばならないし、肉と乳製品は親子関係にあり混食は認められない（レアステーキとミルク入りコーヒーはNG）。

コシエルには認証制度があって、食料品店の多くの食材には適合マークが付いている。また、規定を厳格に守る家庭では、肉用と乳製品野菜用で、食器、調理器具、流し台を別々に持つ。

安息日は三大一神教に共通で、神は六日間で天地を創造し、七日目に休んだことに由来する。ユダヤ教では、金曜日の日没から土曜日の夕方までを安息日（シャバット）とし、一切の労働が禁止される。

買い物にも行けないし、火も使えず、調理もできない。電源ボタンを押すことも労働にあたり禁止で、テレビもパソコンもだめだ。家庭では点灯・消滅を前もってタイマーに設定するし、シャバット・エレベータや、シャバット・スマホもある。

この日は、公共交通は止まるし商店も休む。街を歩いているのはシナゴグに行き来する人位で、静かなものだ。ユダヤ人にとって安息日は、家庭で家族と過ごし、シナゴグで祈る日で、日常生活を離れ、神と向き合う大切な日だ。

ユダヤ人で戒律を守っている人はどれ位いるのだろうか。イスラエル大使館のHPによると、戒律を守っている人は二〇%、いくつかの戒律を組み合わせで守っている人が六〇%、戒律に従わない人が二〇%とあった。六〇%の中には、おおむね戒律を守っている人から、普段は戒律を守らないが、豚肉だけは食べない人や新年行事や逾越祭だけ戒律に従う人まで、かなりの濃淡がある。